

働く人、まちの人、それぞれの思いが伝わる映画でした。  
協同労働はインクルージョン（包摂的）  
な働き方だとよくわかりました。  
(20代女性 生協組合員)



幸せの本質がわかる映画でした（40代女性 会社員）

労働者

経営者

で

?!

子ども会の復活を大先輩とともに...  
餅つきってこんなに大変だったんだ?!



息子が就活で連敗中。是非、息子だけでなく若い人に見てもらいたい映画でした。地域の要求にたいして事業を起こして解決しつつ、地域の人たちと共に「自分らしく働く」生き方。ここにワーカーズの未来を感じました。広げよう「協同労働」!

(50代男性)

地域は家族!



自分たちが協同で仕事を作り（見だし）、協同で経営・運営し、大企業や政治・行政では手の届かない人々・場所への働きかけを行って、本来の幸いへとイノチをつなげていく、このワーカーズコープや各種NPOのあり方は、これからますます求められ、増えていくだろう。なぜなら、これは、人間がこの世界で生き延びてゆくための数少ない選択肢の中で、地道だけれど、とても有効な一つの道だから。

(「歓喜の仔」facebook特設ページ 天童荒太コラム Vol.72) 2013.2.4



身寄りのないお年寄りの生活を支える  
(家探しや引っ越し、葬儀まで...!)

自分たちの明日を自分たちで耕しはじめている人々がいます。

雇う者、雇われる人と言う関係ではなく経営方針から地域に必要な仕事おこしまで、一つ一つをみんなで決めていく...ちょっと面倒臭い、けど、てんでこ舞いしながら話し合いを繰り返すなかで、「ハタラキガイ」や「キズナ」が育まれます。どこかにある桃源郷ではなく、地域の中に溶け込んで、ころを合わせ、力を合わせ、助け合って働いていく。そこには新しい時代にむけてのかすかな光への芽生えがありました。

森康行 監督作品

「ややこしさ」「めんどくささ」と向き合うことなく人が暮らしていくことはできません。働くことも「苦」や「責任」がたくさん。でも映画は人やまちに食い込んでいくことはそんなに簡単なことではないけれど、めんどくさいことに向き合い、たくさん苦悩する先にちゃんと「つながれる」ことを描いてくれました。(50代女性 会社員)

森 康行(もり やすゆき)1950年静岡県出身。映画監督。1978年、短編の文化映画「下町の民家」(東京都制作)で初監督。主な作品として「ピキニの海は忘れない」(キネマ旬報文化映画ベストテン10位)、「渡り川」(キネマ旬報文化映画ベストテン1位・毎日映画コンクール記録映画文化賞)、「こんばんは」(キネマ旬報ベストテン文化映画部門1位・毎日映画コンクール記録映画文化賞・第1回日本記録映画大賞)「かすかな光へ」(キネマ旬報ベストテン文化映画部門第8位)など。

Workers  
ワーカーズ

自主上映団体  
募集中

【連絡先】 配給：映画「ワーカーズ」全国上映普及委員会  
TEL 03-6907-8032 FAX 03-6907-8031  
E-MAIL workers-movie@roukyou.gr.jp

映画「ワーカーズ」御殿場上映会 入場料:500円

11月30日(土)13時30分開場 14時上映開始

お問い合わせ 企業組合労協センター事業団 御殿場つばさ地域福祉事業所  
前売り券販売 TEL: 0550-78-7511 Mail: gtnbts@roukyou.gr.jp

※上映後、出演者の高浜和行さんに撮影秘話を語ってもらいます

御殿場市民会館 小ホール

〒412-0042 静岡県御殿場市萩原183-1

TEL: 0550-83-8000

後援: 御殿場市・小山町・御殿場市教育委員会・小山町教育委員会  
御殿場市社会福祉協議会・小山町社会福祉協議会・岳麓新聞社・日刊静岡